

仙台市子どもの生活に関する実態調査について

1 調査の目的

貧困対策計画の次期計画策定にあたり、本市における家庭の状況やニーズ等の現状の把握と分析、課題等を整理することを目的として、アンケート調査及び支援者ヒアリング調査を実施した。

2 アンケート調査概要

(1) 調査対象

【一般アンケート】

住民基本台帳から無作為に抽出した18歳未満の子どもがいる世帯の保護者及びその子ども（9～18歳未満）

【対象者アンケート】

ひとり親等の世帯から無作為に抽出した18歳未満の子どもがいる世帯の保護者及びその子ども（9～18歳未満）並びに児童養護施設に入所している子ども（9～18歳未満）

(2) 調査方法

調査票を郵送し、同封の返信用封筒による返送またはオンラインにて回答。

(3) 調査期間

令和3年11月1日（月）～令和3年12月17日（金）

(4) 回答率

	配付数	有効回答数	有効回答率
一般アンケート（保護者用）	2,700	1,108	41.0%
一般アンケート（子ども用）	1,350	435	32.2%
対象者アンケート（保護者用）	2,998	965	32.2%
対象者アンケート（子ども用）	1,598	370	23.2%
対象者アンケート（児童養護施設入所者用）	70	64	91.4%
合計	8,716	2,942	33.8%

(5) 結果概要

① 家計の状況

ひとり親等の世帯では一般世帯に比べて、貧困線未満の所得となっている世帯や必要とする衣料が買えないことがある割合が高くなっている。

項目	回答者	一般	ひとり親等
貧困線（国民生活基礎調査における可処分所得の中央値の半分）未満の世帯の割合	保護者	6.6%	39.0%
必要とする衣料が買えないことが“あった”		7.4%	33.7%

② 暮らしの状況

ひとり親等の世帯は、一般世帯に比べて、現在の暮らし状況を“苦しい”と回答した割合が高く、また、新型コロナウイルス感染症の影響をより強く受けている。

項目	回答者	一般	ひとり親等
暮らし状況が“苦しい”	保護者	32.3%	68.4%
新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、暮らしは「今の方が苦しい」		19.4%	32.7%
相談相手がほしい		7.7%	24.5%

③ 子どもの学習状況

ひとり親等の世帯の子どもは学習に困難を抱えている割合が高くなっている。

項目	回答者	一般	ひとり親等
学校の授業時間以外にまったく勉強しない (平日)	子ども	6.7%	14.1%
成績がクラスの中で“下のほう”		23.5%	37.3%
進学希望と現実的な進学の見込み(展望)が異なる理由が「経済的な余裕がないから」		7.0%	22.1%

④ 子どもの生活状況

ひとり親等の世帯の子どもは、一般世帯の子どもに比べて、必要とする文具や教材が買えないことがある割合や、経済的に余裕がない点を困っている割合が高くなっている。

項目	回答者	一般	ひとり親等
必要とする文具や教材が買えないことが“ある”	子ども	7.3%	19.7%
ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)を「利用したことはない・あれば利用したいと思う」		17.0%	22.7%
家族の世話をしている		9.2%	13.0%
困っていることが「家にお金がない(少ない)」		6.0%	27.6%
自分の将来について明るい希望を“持っている”		75.4%	63.3%

3 支援者ヒアリング調査

関係機関及び支援団体等 16 か所に対し、困難を抱える家庭における保護者や子どもの状況として、生活や就労の様子、親子間の関わり方のほか、現在の支援制度の有効性や課題、子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組等について、令和3年11月16日(火)～令和3年12月17日(金)にヒアリングを実施した。